

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆10月街角景気、6カ月連続上昇 判断「持ち直している」上方修正

・内閣府が発表した10月の景気ウオッチャー調査(街角景気)は現状判断指数(DI、季節調整値)が前月比2.0ポイント高い49.1だった。6カ月連続で上昇し、基調判断も「持ち直しの動きがみられる」から「持ち直している」に上方修正した。判断を引き上げたのは3カ月ぶり、現状判断指数の水準は24年3月以来の高さ。

◆4～9月の経常黒字、14.1%増の17兆5128億円 輸入額縮む

・財務省が発表した2025年度上期(4～9月期)の国際収支統計(速報)によると、海外とのモノやサービスなどの取引状況を示す経常収支は17兆5128億円の黒字。黒字幅は前年同期から14.1%増加し、年度の半期ベースで過去最大。輸入額が縮小し、貿易収支が黒字に転じた。貿易収支は494億円の黒字(前年同期は2兆3600億円の赤字)だった。

◆飲食店の倒産が過去最多 1～10月、牛肉・コメ高騰で焼肉店が苦戦

・東京商工リサーチが発表した10月の全国倒産件数(負債額1000万円以上)は965件と前年同月比で6%増だった。負債総額は5割減の1275億円と小粒倒産が多い。物価高・人手不足が倒産件数を押し上げる構図が続き、特に飲食店の倒産が増えている。1～10月の飲食店の倒産件数は前年同期比1%増の734件と過去最多だった。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆鹿島の26年3月期、純利益23%増で最高益 従来予想を上方修正

・鹿島は2026年3月期の連結純利益が過去最高となる前期比23%増の1550億円になる見通しだと発表。従来予想から250億円上方修正し、事前の市場予想(1406億円、QUICKコンセンサス)も上回った。建築と土木の両事業で採算が改善、不動産販売事業の収益性の向上を反映。売上高は3%増の3兆円、営業利益は33%増の2020億円を見込む。

◆大成建設が一転最高益、26年3月期最終11%増 配当積み増し

・大成建設は2026年3月期の連結純利益が前期比11%増の1370億円になる見通しだと発表した。35%減の800億円としていた従来予想から570億円上方修正し、一転最高益となる。事前の市場予想(1056億円、QUICKコンセンサス)を上回った。国内土木や建築事業で追加の変更工事を獲得し増益に寄与。3月期の売上高は3%減の2兆900億円。

◆アイリスオーヤマ、中国・深圳に研究開発拠点 ロボット・家電など

・アイリスオーヤマは中国・深圳市にロボットや家電などの研究開発拠点「中国R&Dセンター」を2026年1月に開設すると発表した。同社は中国に10工場を展開し、基幹の大連工場では家電などのほか将来の主力事業と位置づける業務用ロボットを生産している。新たに拠点を設け製品開発のスピードを上げる。

《 注目商品 》

■トーヨーキッチン、マットメタリック+立体表情の新デザイン

・システムキッチン「BAY(ベイ)」「BAY CUBE(ベイキューブ)」の新デザインとして「S チタニウム2」をラインアップ。マットメタリックな質感と、高圧・高熱処理された特殊樹脂含浸素材「HPL(ハイプレッシャーミネート)」による立体的なテクスチャーが繊細な陰影を表現。



■永大産業 ビルトイン収納を刷新、ニュートラルカラー追加

・ビルトイン収納「フィルフィット」をリニューアルして2026年1月13日に発売。居室が一体化した見える場所に収納が設置されるケースが増え、また近年はグレーやベージュなどのニュートラルカラーが求められる傾向にあることを受けて商品を刷新。



■ドア、パネル、窓など最大154kgを楽にリフトアップ

・スタンレー ブラック・アンド・デッカーは、ツールブランド・DEWALT(デウォルト)のタフシリーズ国内第1弾商品として、重い資材を楽に持ち上げて固定できるリフトアップツール「ジャックリフト(DWHT83550)」を発売。最大154kg、222mmのリフトアップ。

